

第4回 史跡中里貝塚整備基本計画策定委員会

日時：令和2年12月7日（月）13：30～15：50

場所：北区飛鳥山博物館会議室

【出席者】

〈委員〉

石川 日出志	委員長	吉村 晶子	副委員長
松本 晴光	委員	山田 和夫	委員
長濱 恵美子	委員	西原 令春	委員
植月 学	委員	山口 宗彦	委員

〈オブザーバー〉

岩井 浩介 文化庁文化資源活用課 整備部門（記念物）文化財調査官
鈴木 徳子 東京都教育庁地域教育支援部管理課 課長代理

〈区関係理事者〉

丸本 都市計画課長
岩本 土木部参事
杉戸 道路公園課長

〈事務局〉

小野村 教育振興部長	野尻 飛鳥山博物館長	鈴木 事業係長
牛山 学芸員	安武 学芸員	高坂 学芸員

【次第】

1. 開会
2. 教育委員会挨拶
3. 議題
 - (1) 計画書の修正について〈第4回委員会資料※事前送付分〉
 - 第1章 計画策定の経緯と目的
 - 第2章 計画地の現状
 - 第3章 史跡の概要および現状と課題
 - 第4章 基本理念・計画方針
 - (2) 第5章 整備基本計画について〈資料〉
4. その他
次回委員会 令和3年1月25日（月）午後1時30分～
北区飛鳥山博物館3階会議室
5. 閉会

【配付資料一覧】

1. 史跡中里貝塚整備基本計画策定委員会第4回会議次第
2. 史跡中里貝塚整備基本計画策定委員会第4回会議席次表
3. 史跡中里貝塚整備基本計画策定委員会名簿
4. 議事関係
 - 資料1 第4回委員会資料（第1章計画策定の経緯と目的～第4章基本理念・基本方針）
 - 資料2 「第5章 整備基本計画」
 - 資料2 中里貝塚史跡広場、上中里2丁目広場整備計画図（案）

【傍聴人】

傍聴人1名

【議事内容】

1. 開会
2. 教育委員会挨拶
3. 議題

〈議題（1）計画書の修正について〉

副委員長： 最寄駅から案内板・説明板はないとのことだが、整備される予定はあるのか。

事務局： 第5章にて説明するが、整備をする方向で検討している。

オブザーバ
ー： 遺跡全体の貝塚の広がりに対して史跡の範囲がどの範囲なのかや、そのほかにいろいろな生産された場所が見つかっている。そのところを落とし込んでいただきたい。提言でいいと思うが現況図を薄くし、当時の姿をそこに重ねるような感じで、この場が広がりを持った遺跡であるということがわかる想定図を作っていただきたい。

事務局： 作図をして掲載できるようにすすめたい。

委員： 51頁の想像図は史跡になっている範囲の知見から作った図で、今、栄町貝塚が調査されている。そこもアップデートして新しい図に直していただきたい。

環境復元も検討し直して最新のものを作っていただきたい。

委員： 北区の中での位置づけという時に地理的な位置づけだけではなく、シティプロモーションとしての位置づけは今どのようになっているのか。

事務局：今は中里貝塚自体をシティプロモーションの中に取り込んでいないが、今後施設整備計画が策定された時にはそこもシティプロモーションの中に入れていくべきと考えている。

北区は遺跡の街ということも標語しており、面的な形で中里貝塚も含めた3つのエリアをシティプロモーションの中に打ち出していきたい。

委員：都市計画の方ではどのように考えているのか。

都市計画課 この7月に都市計画マスタープラン2020ということで策定したが、その中で中里貝塚について、こういう貝塚があるという点については地域別のところでは掲載させていただいた。その後の展開はこういう検討の動きもあるので、まずは頭出しをさせていただきながら、その動きを見ながらということである。

委員：北区の中でも貝塚、昭和町地区は知られていないところが多い。観光マップにも載っていないぐらいの場所。貝塚がどこにあるかわかっている人は少ないと思われる。

ここにこういうものが出来るというのをマップに載るように、北区随一の名所となるような方法を考えていただきたい。

<議題（2）整備基本計画について>

事務局による説明

委員：71頁のルート案、尾久駅は埼玉から東京の利用者が非常に多くなって上中里駅以上に利用者が多いが、ここには尾久駅を利用するコースは載らないのか。

事務局：71頁の項目については中里貝塚ファンゾーン内で、北区飛鳥山博物館を含む3つのエリアを直接的に繋ぐ動線として提示している部分になる。博物館と2つの指定地の移動手段としてこの2ルートを提示している。

委員：博物館のファンゾーン内とは別にJR尾久駅からの図を載せていただきたい。フェスティバル等で何万人という旅行者が見学にくる。タイムカプセル平成ロードを通過して向こうへ行くが、そのコースが非常に重要な位置になってくる。

事務局：他の項目にて、尾久駅との関係性について強調する形で書き直しをしていきたい。

委員長：尾久駅だと埼玉県方面の赤羽よりも北、それから上野よりも南の人が来る。それよりも近場の方が上中里駅を利用している。利用される方それぞれに違いがある。そのことを強く意識してここに表明することがとても大事ではないか。
駅から貝塚への案内表示等を意識して分けて明示する必要がある。

委員：尾久駅のことだが、計画地周辺には駐車場が少ないが尾久駅の向こう側の明治通り沿いの奥には沢山ある。車を使って来たい人は尾久駅周辺に停めて地下道を歩くと思うので、地下道を考えるうえでそこも意識していただきたい。

委員：史跡広場の平面図の件で、トイレができるということは電気設備が来るということとイコールかと思うが、ARやVRを使うのでWi-Fiの設置を考えていただきたい。
史跡広場と上中里2丁目広場に各1つずつ設置を検討いただきたい。
中里貝塚の存在をアピールするためにメインエントランスに大きな看板（高さ5m×幅20m）を作っていたきたい。メインエントランスの上ならJR京浜東北線で来る人からちょうど見える。JR側に「史跡中里貝塚」と入れ、裏側は貝塚の図を入れてはどうか。

事務局：いただいた意見について、文言の中に折り込める部分についてはそのようにする。また看板については大きさ等未定だが検討していきたい。

委員：上中里2丁目広場の件、北側の右下の所に幅1m位の間隔で杭が6本検出されているので、その場所を示していただきたい。
焚火跡が上側の方に30～40箇所あると聞いている。場所を示していただきたい。

事務局：杭列や焚火跡はAR・VRポイントとして将来的に露出展示をする場所として残していこうと考えていたので、地上の表示については計画の中に入っていなかったが、そのあたりも含めて表示方法等検討していきたい。

委員：いろいろ施策があるが、どのぐらいリピーターを増やすかも考えていかなければいけないと思う。

知的好奇心を刺激して疑問を持たせ、図書館や博物館で調べてまた現地に行って、といった繰り返しができるといいのでは。

委員： 地元の要望としては、史跡広場の北側サブエントランスの所がクランクになっており自動車から見ると人が影に入っ見えにくく危険なところがあるので対処していただきたい。

委員： タイムカプセル平成ロードは地元の人にとっても生活道路(地下道)だが、雨になると滑りやすく危なっかしい地下道になっている。バリアフリー化していただきたい。

事務局： 1点目のリピーターの獲得については記述から漏れているところになるので盛り込んでいきたい。

2点目の北側のクランクについてはどこまで行っていけるか現状わからないので、検討課題とさせていただきたい。

委員長： 2地区の整備案についてはいかがでしょうか。

副委員長： 整備計画案についてはもう少し現場性を出せる案にした方が良くはないか。

参考図として出された下野谷遺跡整備計画図の敷地の中に展示されているものは敷地に対して大きいもの小さいもの位置が落ちているからある程度かけるが、中里貝塚の場合は貝塚自体が幅100m長さ700mにわたるものであり、そのごく一部がこうして確保できているので整備するのであると。そのことを感じられるような平面図でなければならないのではないか。

この平面図だと敷地の中に閉じてしまって、あたかも園路の中に何かがあると、中央部に埋まっているだけかのように現場で感じられてしまうのではないかと懸念がある。

園路の幅員についても車両を通すための管理用通路がある程度必要というのは理解できるが、本当に車両を通さないといけないところが園路全体なのかという少し違うように思う。

考え方がはっきりしている所とそうでない所と整理して、このように考えているという所はきちんと整備案に示した方が良くはないかと思っている。

現場性に関しては史跡広場の方でエントランス広場があるが、この辺りは阻むものもあるが台地を視認できる。この場所で台地の上の集落の人がここまで下りてきて貝の作業をして、これだけの貝塚ができたというのを少ないながらも視認できる貴重な場所がエントランス広場のあたりにあると思う。何か学習できるようなことも考えなければならないのではないか。

看板の話があったが、電車から見ればここに広場があるのはわかると思うのでエントランス広場から少しずらして建てた方がいいのではないかな。どうせならQRコード等を貼っておいて更に情報を置いてはどうか。エントランス部分は当時の地形を彷彿できる台地が見えるという場所なので非常に貴重である。地形立体模型も置くのであれば近いところに置いた方が学習効果も上がるのではないかな。

樹木を入れることについては慎重である必要があり、また外枠を付けた方がいいと思っている。

低木の植栽を直接入れるより、レイズドベッドを活用してはどうか。駐車場の花壇のように、コンクリートで少し高さを上げて花壇を作ると下には全く影響しない。そこに新しい土を入れて、植え替え一切なしで季節によって順番に花が咲いていくようなものを入れている。このように上中里2丁目広場の方はコンテナでまとめるような方法を試し、あとで公共的な施設を作るときに動かせるのでこのような形でも遺構を傷つけない良い方法ではないかな。

芝生広場が整備されていたが、芝生の管理は定期的に除草剤を入れないと雑草が沢山生えてくるので大変である。谷津坂第一公園のように、ある程度の雑草を許容しながら活用してはどうか。芝生広場の方もこういった形でやる方法もある。

緑陰を得るためのつもりで樹木がいくつか平面図の中に表されているが、ブナやオニグルミ等がベンチの置いてある所に全くなく、座るところに日陰がないので趣旨がわからない。ベンチも通路沿いに平行にあっても落ち着いて座っていることができないのでは。学習をしている子供たちを親が見守る時や、史跡で長い時間考えて一人で佇む等で利用する事を考慮すると、このベンチの数では少し足りないし、日陰ももっと必要。できるだけ地域の方に愛されるような形でやるというほうがよい。

委員長： 植栽の具体的な位置などは計画が始まった所なので、この意見を参考にしてこれから具体化していきたい。

あれだけ広く大きい貝塚のほんの一部分だけが史跡指定地になったので、全体を把握できる様に整備するのはなかなか難しい。これについては地形立体模型とサインコーナーによって、遺跡周辺の地形の広がりや立体感がどこまで体感できるのか、理解できるのかにかかっていると思う。今のこの案で示されているのは西側の台地側を振り返って貝塚の高まりと台地を一つの視界の中に入れてほしいということでここに配置している。もう一度様々な角度から検討していただきたい。

史跡広場の方の貝塚の剥ぎ取り標本の設置の仕方がいいのかどうかというところもご意見をいただきたい。

委員： 厚みや迫力を体感してもらおうというのは私も考えたが、剥ぎ取りに限らず看板とかサインを含めて耐久性を考慮してほしい。今の看板もそうだが史跡の看板は日焼けし、めくれているとそれを見ただけで寂しい気持ちになる。上まで建てるというと良くも悪くも目立つ施設になるので剥ぎ取りを置く場合でも、ある程度保存・耐久性のあるような形にという考慮が必要である。

副委員長： 一般論で露出展示がとても難しい事はわかるが技術的には可能であろうと思う。工事費・メンテナンス費用とか給排水材もつけなければならないが、どうにかいけないか。

委員長： 副委員長の発言だが、地下に下げすぎると未発掘区の地下水位まで全部斜めに水位が下がってしまうので、未調査区分の保存環境が変わってしまう。

もし貝塚の厚みを体感するというのであれば地下に何か敷設するとなる。しかし中里貝塚で行うとなると、今の技術では非常に難しい。ほかの所でもやっているが問題が山積みである。

副委員長： 剥ぎ取り標本で行くと決めたとすると、例えば数十cm位掘って、剥ぎ取り標本を周囲に巻いた透明アクリルの円筒を入れ、それをのぞき込むものを作ってみるとすると、暗くて下が見えなくなるまで貝塚を見る感覚が味わえる。そういう小規模の円筒を入れるとすると現場性ができるのでは。

委員：規模感や、今のイメージを教えてください。博物館には4～5 m位の高さの剥ぎ取りがあるが、ここに1～2 m位の剥ぎ取り標本を置いてもしようがない気がする。

中里貝塚ならではとなると、すごく厚くなると思うがどのぐらいのイメージか。

事務局：史跡広場の方については4 mを超える厚みの貝層は出ていない場所になる。基本的に地面の下にあるものを直接見ていただくことができないので地上に持ち上げて見学していただくということである。

ここだと2 mほどの厚さになる。厚さ2 m、長さ5～10 mの貝層をこの場所で展示をするというイメージである。

委員：この場所を実際にまた掘って、剥ぎ取り標本を作成するということか。

事務局：かつて発掘調査したトレンチの部分を再度開けて、剥ぎ取り標本を作成したものを展示する形になる。新たな場所を発掘調査するわけではない。

オブザーバー：全国の史跡の事例を見ても、遺構の実物をそのまま見せるということには苦勞をしている状況である。イニシャルコストとメンテナンスなどのランニングコスト、トータルをみて検討いただいている状況である。

事前にご相談いただいた際に、園路の舗装を表示として変えて平面表示として表現してはどうか、などのアドバイスをした。しかし、史跡広場だと貝層は北まで伸びているので同じ舗装となってしまう、二丁目広場は北が白で南がベージュとなっている。整備時期を考えると二丁目広場が整備されるまでは時間があるため当面誰も気づかない。両方一度に公開されるのであれば舗装の差が気づかれるかもしれない。

そもそもこの貝塚の広がりがどのようになっているかが、この遺跡の魅力であり、それを表現することが重要である。価値をまさしく伝える現地性を踏まえたものとしてほしい。マウンド自体も2 mでおさまるのか、などもよくわからない。基本情報をもう一度整理してもよい。

基本情報の概念図があって、それを表現するのがこの平面図であるということになるとわかりやすい。その内容は報告書の文章で整理する。

報告書に学校との協力の記載があるが、現状として学校教育関係とは協力されているのか。もしまだないのであれば、1度学校側とも協議されたうえで計画書に入れるとよい。内容を見ているとまだ具体性が薄いように見受けられる。学校教育のプログラムの中に組み込んでもらうには数年かかると思う。せつかくいい計画なので具体性をもっと詰めて記載したほうが

良いと感じた。

委員：この貝塚の1番の魅力は4mの貝塚であるのでそれをどこかで見せたいという思いがある。技術的な問題もあると思うので、レプリカを製作してタイムカプセル平成ロードの壁に貼ってはどうか。階段側なら高さ的にも問題ないと思われる。

委員：上から史跡広場がすべて見ることのできるビューポイントがある。上からみるとリアルなのでぜひそのポイントを入れた方がいい。

議事終了

事務局：ご意見を踏まえて資料は修正をしていきたい。
本来は次回をもって終了の予定でしたが、第5章についてまとめる時間、まとめたものをもう一度みなさまに見ていただくことを考慮し、1月下旬の後に2月下旬にもう1回開催を検討したい。
次回は1/25（月）13：30～とする。